

榛名林間学園のあり方について（中間報告）

1 はじめに

榛名林間学園は、昭和48年の開設以降、板橋区立学校の児童及び生徒の校外における教育活動の促進並びに区民の社会教育活動の伸展に資する施設として活用されてきた。

長期間の施設使用が続き、施設・設備の更新時期を迎える中で、平成28年1月策定の「板橋区基本計画2025」において「社会教育宿泊施設の充実」が計画事業に位置付けられ、令和5年度（2025年度）までの計画期間中に改築・改修の実施検討を行うこととなった。

しかし区政を取り巻く環境が大きく変化する中で、前記基本計画のアクションプログラムである「いたばしNo.1実現プラン2021（経営革新編）」（平成31年1月策定）において、「行政サービスを量から質に転換し、財務体質の改善を目指す」という理念のもとに、施設の改築・改修等についてサービスや事業のあり方を検討したうえで方向性を整理し、令和3年度（2021年度）にあり方の結論を出すことになった。

また、新型コロナウイルス感染症の伝播による日本経済への深刻な影響など、区政を取り巻く環境も大きく変化しており、ポストコロナ時代における行政サービスのあり方についても早急に再構築していく必要がある。

こうした状況を踏まえ、榛名林間学園の現状の分析と課題の洗い出しを行い、今後のあり方を検討する。

2 榛名林間学園の現状

現状分析には、新型コロナウイルスによる影響が過大であった令和2年度ではなく、令和元年度以前の実績を基に行う。

(1) 利用状況

利用の多くは区内の小学5年生の移動教室であり、そのほか青少年健全育成委員会による宿泊事業や、社会教育団体（少年団体等）、一般による利用がなされている。

【各団体別利用人数】

(延数)	移動教室 (区立小学校)	青健事業	社会教育団体 (少年団体等)	一 般	合 計
元年度	8,571 人 (74.7%)	635 人 (5.6%)	1,194 人 (10.4%)	1,071 人 (9.3%)	11,471 人
30 年度	8,503 人 (69.5%)	1,307 人※ (10.7%)	1,393 人 (11.4%)	1,036 人 (8.4%)	12,239 人
29 年度	8,109 人 (73.1%)	586 人 (5.3%)	1,347 人 (12.1%)	1,051 人 (9.5%)	11,093 人

※平成 30 年度は八ヶ岳荘の大規模改修のため、青健団体の利用が増加した。

(2) 年間経費（令和元年度決算額）

49,784,072 円

（内訳）委託料 41,252,653 円 工事請負費 6,208,400 円

使用料及び賃借料 2,307,270 円 その他 15,749 円

3 課題

(1) 施設の老朽化

① 外壁・屋根の老朽化

令和 2 年 11 月に実施した、建築基準法第 12 条に基づく建築物定期点検では、外壁及び屋根材の劣化について指摘を受けている。外壁については、一部壁が崩れている危険箇所の補修工事を実施しているが、全面的な改修工事が必要な状況である。

また、屋根については、アスファルトシングル葺きの劣化により、その下の防水シートにも影響が出ており、施設内の至る所で雨漏りが発生している。部分的な雨漏り修理が困難であるため、こちらも全面的な改修工事が必要である。

② 設備の老朽化

各種設備は経年劣化による修繕・補修が頻繁に行われている。高圧受電設備・温水ヒーター・受水槽・館内放送設備等は、更新時期を迎えており、不具合が発生した場合は、施設の運営に大きな支障をきたす恐れがある。

③ バリアフリー設備の欠如

施設内にはエレベーターが設置されておらず、車いす利用者は利用できる宿泊室が限定されてしまう。また、浴室はバリアフリーに対応していない。また、多目的トイレの設置も 2 階のみであり、車いす利用者には負担となっ

ている。

(2) 立地上の課題

① 冬季期間の利用率の低さ

開設当初は、冬季期間の施設利用を想定していなかったため、施設内の暖房設備や建物の防寒対策が不十分であり、例年 2 月頃には、施設内でも気温は氷点下となり、冬季期間の利用率に大きく影響している。

また、施設近隣にスキー場等のレジャー施設がなく、冬季期間は榛名湖町全体において観光客が少なく、冬季休業している店舗が数多くある。

② 高湿度による影響

榛名林間学園は窪地に設置されているため、湿度が高く、建物の老朽化に伴いカビが発生しやすい状況である。利用者アンケートにおいても、カビの臭いを指摘されることがあるため、施設内には除湿機を設置しているが、根本的な解決には至っていない。

③ 医療提供の不足

施設内には保健室があるが、医療従事者が常駐していないため緊急時は施設外の医療機関への受診が必要となる。榛名林間学園の近隣には医療機関がなく、最も近い医療機関は渋川市伊香保町の内科医院（所要時間は自動車利用で約 20 分）となり、冬季は積雪の影響で通行ができない可能性もある。また、外傷ではさらに遠方となる高崎市内（所要時間は車で約 1 時間 30 分）での診察になるため、懸念材料となっている。

4 あり方の検討に向けた区内公立小学校長宛てアンケート（別紙資料参照）

令和 3 年 5 月、移動教室で使用している区内小学校にアンケートを実施した。

施設の優れている点として体育館が設置されていることや職員の対応、周辺環境の良さがあげられ、改善点としては施設の老朽化部分の修繕やバリアフリー対応、冬季利用が可能となる機器の整備など、施設の改修に関する改善点が多く寄せられた。

施設の運営体制については、ほぼ半数の小学校が運営形態にこだわりはないとしている。

移動教室に求める周辺環境については、板橋区を離れた環境で、ハイキングやキャンプファイヤーなど屋外体験ができる環境を求める意見が多かった。

このほか自由意見では、施設の老朽化の改善に関する要望とともに、医療機関が近隣にないことによる緊急時の対応への懸念もみられた。

5 あり方検討の方向性

榛名林間学園は、「板橋区立学校の児童及び生徒の校外における教育活動の促進並びに区民の社会教育活動の伸展に資する」という施設設置目的を達成するため、ハード・ソフト両面にわたる整備を進めてきたが、今後は以下の視点から、施設の存続・廃止の両面を見据えながら、あり方を検討していく。

① 利用ニーズの視点

榛名林間学園に求められているニーズを把握し、整備によるサービス提供の実現可能性について検討する。

② 代替可能性の視点

区内小学校をはじめ各利用団体が求める周辺環境要件を満たしつつ、現在と同等の宿泊体験が可能な代替施設を調査し、区が榛名林間学園を保有する必要性について検討する。

③ 財政負担の視点

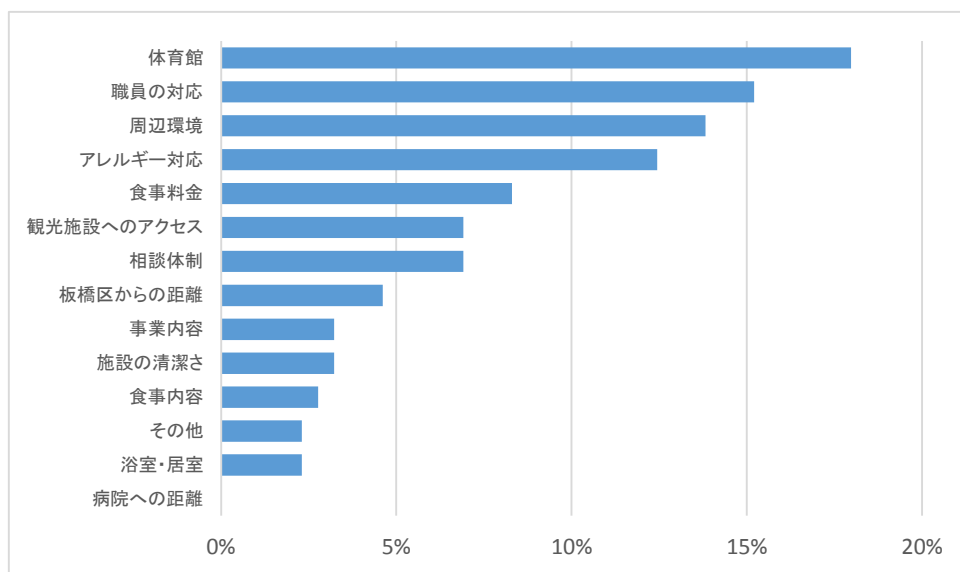
「いたばし No.1 実現プラン 2025 経営革新計画」の考え方を軸に、施設の継続において不可欠な長寿命化改修工事やユニバーサルデザインに対応するための施設改修費用と、施設廃止の場合の費用を比較衡量し、より最適な手段・方法を検討する。

6 今後のスケジュール

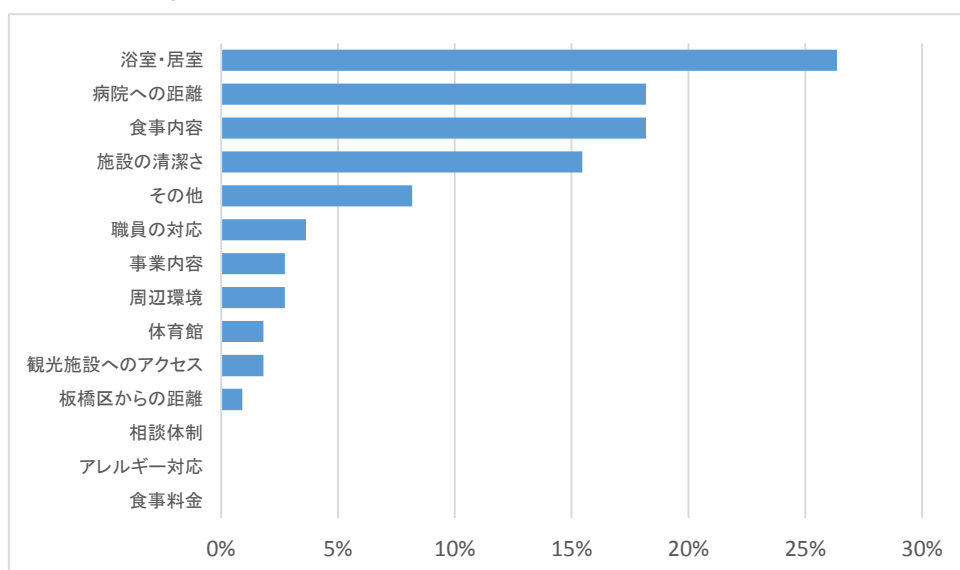
令和3年10月	庁議報告（中間案）
令和3年11月	文教児童委員会報告（中間案）
令和3年11月	最終案に向けた各種調査
令和4年1月	庁議報告（最終案）
令和4年2月	文教児童委員会報告（最終案）

榛名林間学園に係るアンケート結果

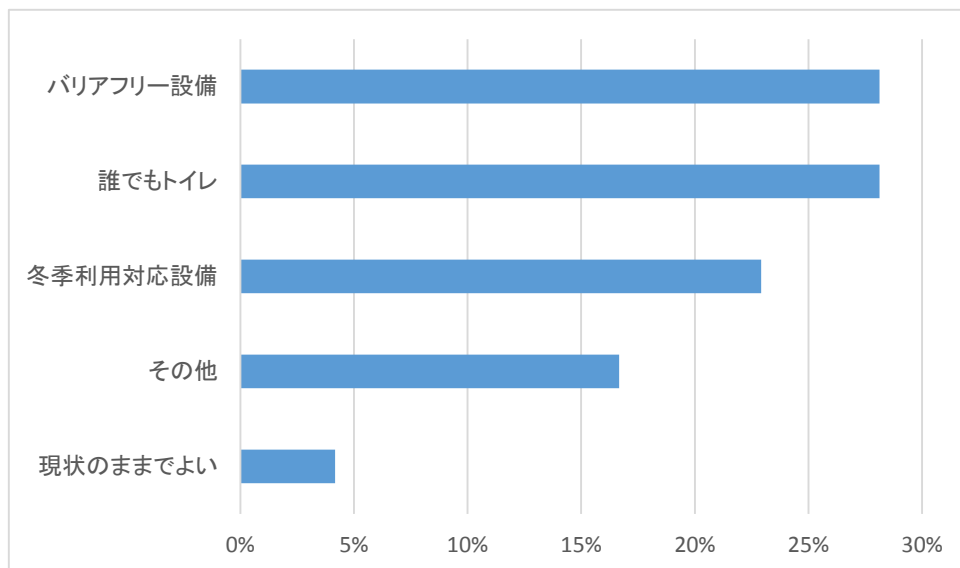
問1 榛名林間学園がすぐれている点について聞いたところ、体育館が 18.0%と最も多く、次いで職員の対応（15.2%）周辺環境（13.8%）アレルギー対応（12.4%）と続いている



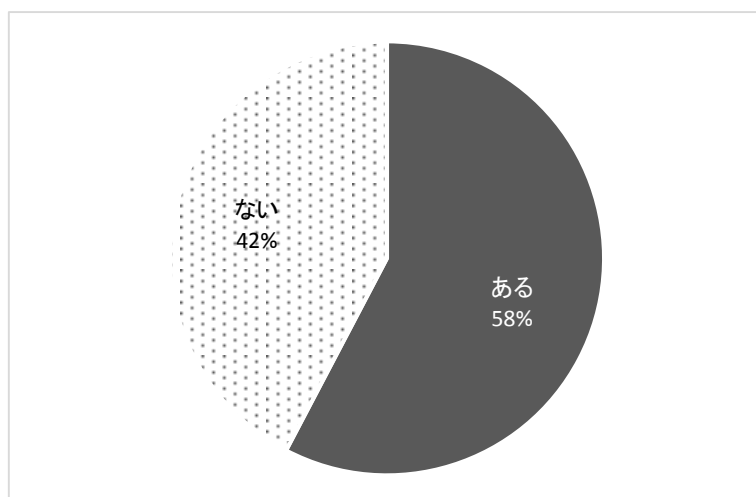
問2 榛名林間学園の改善が必要な点について聞いたところ、浴室・居室が 26.4%と最も多く、次いで食事内容、病院からの距離（ともに 18.2%）と続いている。



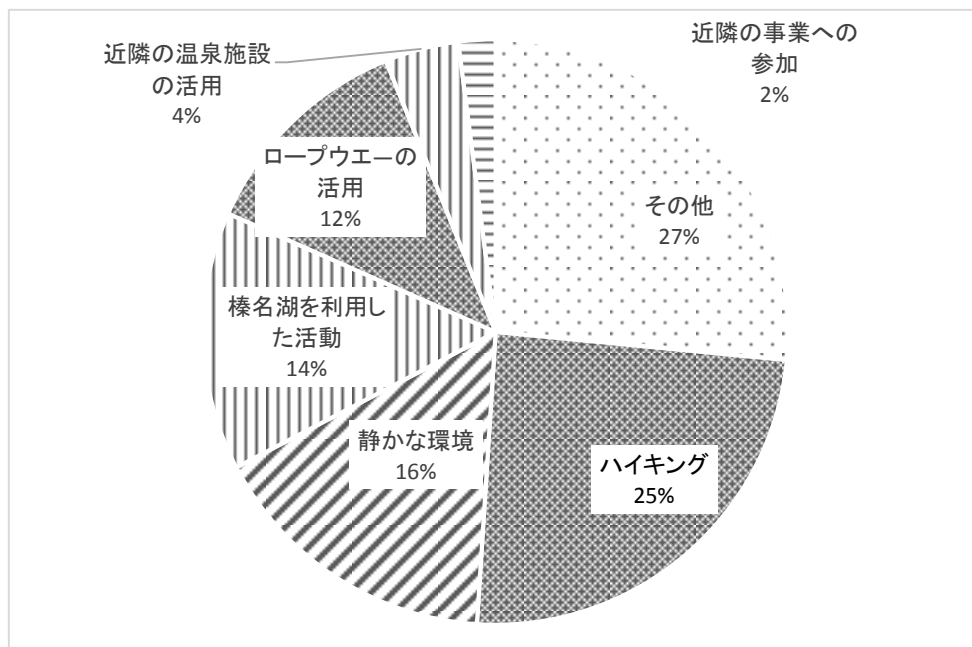
問3 榛名林間学園を充実させるとしたら必要だと思う点について聞いたところ、誰でもトイレが28.1%と最も多く、バリアフリー設備28.1%、冬季利用対応設備22.9%と続いている。



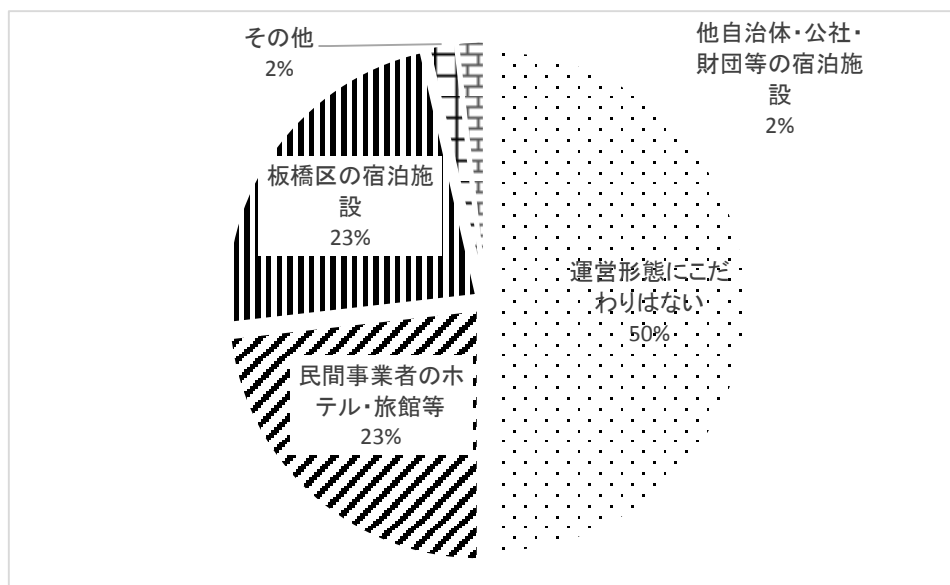
問4 榛名林間学園でしかできないことについて聞いたところ「ある」が57.7%、「ない」が42.3%となっている。



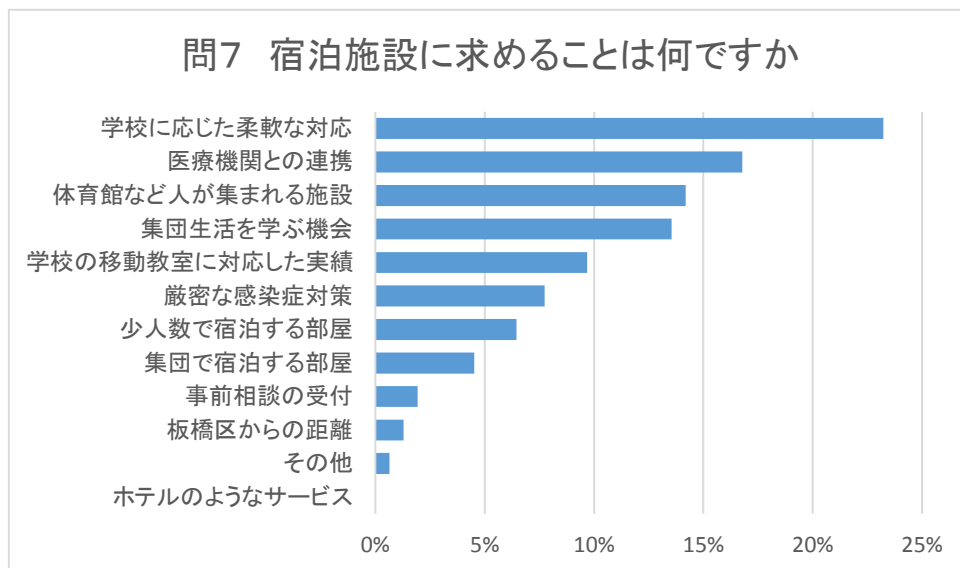
問5 問4で「ある」と回答した方に具体的な内容を聞いたところ、「その他」が26.5%と最も多く、次いで「ハイキング」(24.5%)と続いている。その他の具体的な内容は「キャンプファイヤー」に関するものが50%(16件中8件)であった。



問6 施設の運営形態について聞いたところ「運営形態にこだわりはない」は50.0%で最も多く、次いで「民間事業者のホテル・旅館等」「板橋区の宿泊施設」がともに23.2%と続いている。



問7 宿泊施設に求めるものについて聞いたところ、「学校に応じた柔軟な対応」が最も多く（23.2%）、次いで「医療機関との連携」（16.8%）、「体育館など人が集まる施設」（14.2%）と続く。



問8 移動教室に求める周辺環境について聞いたところ「ハイキングができる」が最も多く（27.6%）、次いで「キャンプファイヤーができる」（21.6%）、板橋区を離れた環境である（14.6%）と続いている。

